**佐藤　俊雄 （さとう・としお）**

**１、プロフィール**

昭和48年、県歌人懇話会副会長に就任。以後、東奥日報社主催青森県短歌大会並びに市町村における県下短歌大会の選者を長く務めるなど青森県歌壇の指導者であった。

＜生没＞

1909（明治42）年３月18日～1992（平成４）年３月12日

＜代表作＞

遺歌集『赤とんぼ』

＜青森との関わり＞

佐藤俊雄は、明治42年３月18日弘前市に生まれた生粋の青森県人である。

**２、作家解説**

明治42年３月18日弘前市に生まれる。大和沢小学校、弘中、弘高を経て昭和７年３月東京帝国大学文学部卒業。昭和７年４月より県立弘前中学校、県視学、弘前市学務課長、県立弘前中央高校教頭歴任。昭和41年４月県立八戸東高校校長をもって教職を退任。

昭和10年４月、県立弘前中学校同職の森山謙一郎氏のすすめにより短歌結社「潮音」に入社。昭和38年１月幹部同人となる。昭和48年７月県歌人懇話会副会長（48年より63年まで）。昭和53年より弘前潮音会会長昭和57年７月より弘前市詩人連盟初代会長。昭和57年11月教育功労により勲四等瑞宝章受章。昭和60年月宮中歌会始陪聴者となる。62年６月青森県歌人功労賞受賞。平成４年３月12日満83歳の誕生日を目前にして永眠。正五位に叙せられる。遺族の願いにより一周忌に遺歌集『赤とんぼ』を発行。

ライフワークとして藤原定家の研究を続け、、その資料も多くあると思われるが門外不出、自らを「定家狂」と名乗る。

母校大和沢小学校校歌を作詞、作曲明本京靜。弘前高野山法光院住職の懇請に応え境内にある水子観音像を詠んだ歌「生まざりし子ゆゑにまよふ親ごころ大悲のみ手にすがるおもひを」は佐藤中隠の筆により台座に刻まれている。

菩提寺の宗徳寺境内には「八旬の白髪かすかにもえつつぞはかみむかふ紅八重桜」が歌碑として建立されている。

歌集以外の執筆としてまとまったもの、同人誌「潮音東北」№45、46、50～55に連載の「治承の春の夜」がある。

**３、資料紹介**

〇歌集『赤とんぼ』

図書

1993（平成５）年３月12日

209mm×145mm

「父には近寄り難く、また遠い存在という印象がありました。それなのに、引きつける何かがあったように思います。父に相談もなく、歌集をつくって怒っているだろうか。いや多分母と２人で苦笑いしているだろう。兄妹４人で纏め上げた歌集です」。長兄、弘次氏のあとがきによる566首を収める。